

## マングローブ植林プロジェクトの累計植林面積 1万ヘクタール突破

東京海上日動火災保険株式会社(社長 北沢 利文、以下「当社」)は、創立120周年事業として1999年に開始した植林 NGO(\*1)との連携を通じた「マングローブ植林プロジェクト」による累計植林面積が 10,103 ヘクタール(\*2)となり、1万ヘクタールを突破しましたので、お知らせいたします。

また、東京海上日動は2009年度以降8年連続で国内の事業活動における「カーボン・ニュートラル」を達成しました。

当社はこれからも、植林 NGO や世界各地の政府・自治体、地域の人々などと連携・協働し、地球温暖化防止、生物多様性保全、津波・高潮被害軽減など様々な効果を生み出すマングローブ植林の取組みを通じて地球を守り、人を育て、安心・安全でサステナブルな未来づくりに貢献してまいります。

(\*1) マングローブ植林行動計画(ACTMANG)、公益財団法人オイスカおよび特定非営企活動法人国際マングローブ生態系協会(International Society for Mangrove Ecosystems)。

(\*2) マングローブ植林プロジェクトは、東京海上日動が1999年に開始し、2017年3月末までに東南アジア、南アジア、フィジーの9ヶ国で10,103ヘクタール(100メートル幅で東海道・山陽新幹線沿いに東京駅から徳山駅までの距離に相当)の植林を実施しています。マングローブ植林には、CO2吸収・固定を通じた地球温暖化の防止・軽減、豊かな海の命を育むことによる生物多様性の保全、その他津波や高潮被害の軽減や漁業生産性の向上などの効果があり、沿岸域に暮らす人々の生活を守りより豊かなものにするに役立っています。

当社のマングローブ植林の取組みについては以下のホームページをご参照ください。

<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/world/greengift/mangrove/>

以上